

LIFE に連携した機能訓練計画書の作成方法

LIFE に連携する機能訓練計画書と評価を作成します。計画書の作成に先立ち機能訓練内容に対する支援コードを設定します。

- 支援コードの設定 → <<日常業務>>その他情報>[機能訓練内容]
 機能訓練計画書の作成 → <<サービス計画>>通所介護>[機能訓練計画書]
 機能訓練実施評価の入力 → <<サービス計画>>通所介護>[機能訓練計画書評価]

個別機能訓練計画書と評価をファイル出力し、LIFE 専用 Web サイトで取り込みます。
 ※出力機能は 4 月末のバージョンアップにて機能追加する予定です。

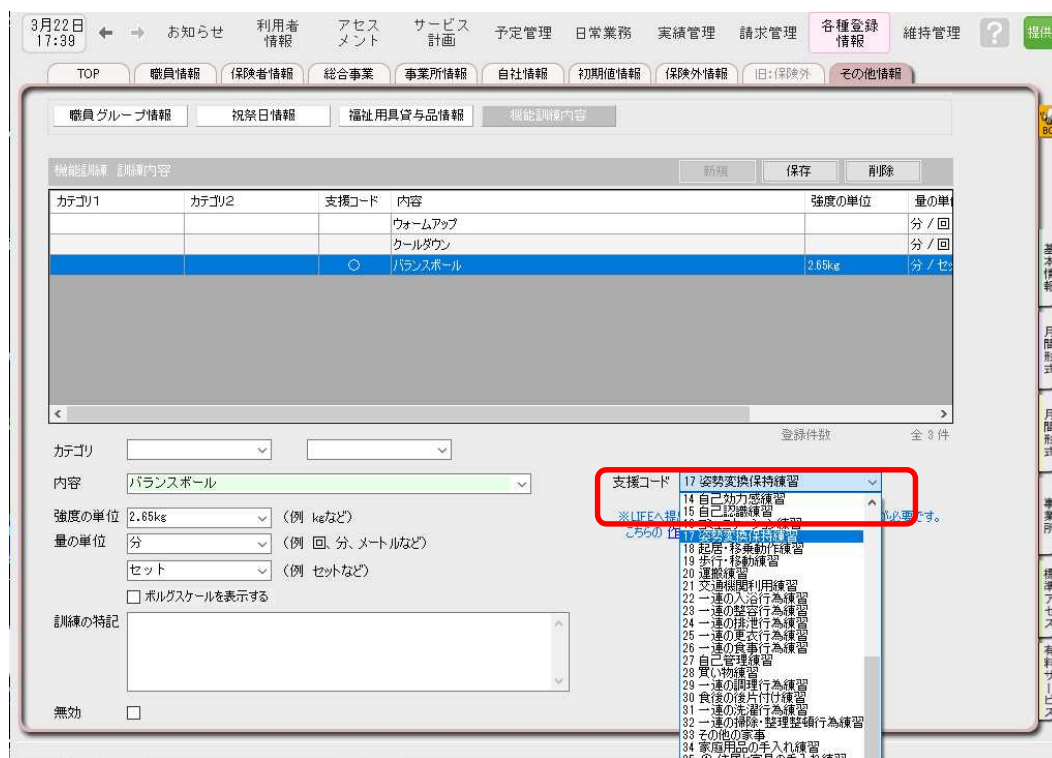
■支援コードを設定します

①[機能訓練内容]画面で「支援コード」をクリックして、訓練内容に対する支援コードを選択して、[保存]ボタンをクリックします。

支援コードはリハビリテーション計画における具体的支援内容をコード化したものです。各項目の詳細は、別紙「LIFE に入力するコードの説明等について」をご参照ください。

例)

- 1.呼吸機能訓練 → 無呼吸、過呼吸、不規則な呼吸、肺気腫などの呼吸機能障害を対象として、呼吸数、呼吸リズム、呼吸の深さなどの呼吸機能を維持・向上させることを目的とした訓練である。



■機能訓練計画書を作成します

<初めに>

機能訓練計画書は期間が重複して作れません。既存の機能訓練計画書の終了日を令和03年3月31日に変更して保存し、令和03年4月1日からの機能訓練計画書を新しく追加でつくります。

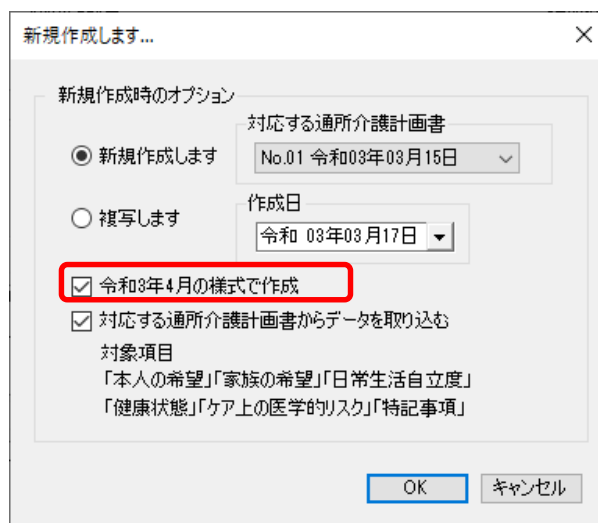


①機能訓練計画書画面右上 [新規]をクリックし、

新規作成入力ダイアログで、「令和3年4月の様式で作成」にチェックを入れ作成します。

※今までの機能訓練計画書を複写し、令和3年4月のレイアウトで作成することができます。

※旧方式で作成した場合は、LIFE 連携項目が不足します。



②[状況]タブ、「利用者本人の希望」などファーストケアでは入力文字数制限がありませんが、

LIFEへ送信される内容は200文字まで、と文字数に制限がかかっている箇所があります。

全入力内容が連携されませんので、LIFEに送信する内容は始めに入力してください。

(連携項目上限文字数は項目によって異なります。)

※別紙「機能訓練計画書の上限文字数」をご参照ください。

③[状況]タブにある病名（ICD10 コード）と記載された場所は、ICD10 のコード番号を入力します。

※ICD10 コードは、別紙「LIFE に入力するコードの説明等について」をご参照ください。

④[訓練目標]タブにある長期目標・短期目標は ICF（国際生活機能分類）を選択して入力します。

※目標設定は3つまで選択できます。

⑤[訓練目標]タブにある頻度（週）・時間（分）が LIFE に提出されます。

※頻度・時間（強度の目標/強度の単位/量の目標/量の単位）は LIFE には提出されません。

頻度・時間 (強度の目標/強度の単位/量の目標/量の単位)				頻度※ [回(週)]	時間※ [分]	主な実施者
		1	回	1	セット	その他
0.5	kg	10	回	3	セット	理学療法士
		5	回	2	セット	理学療法士
		5	分	1	セット	理学療法士

■機能訓練実施後の評価を入力します

- ①機能訓練計画書評価画面右上 [新規]をクリックし、
新規作成入カダイアログで、LIFE に連携する様式で作成した機能訓練計画書を選択します。

新規作成します...

新規作成時のオプション

評価する機能訓練計画書
No.01 平成29年12月15日 - No.01 令和03年03月15日

評価日
令和 03年03月21日

OK キャンセル

- ②機能訓練計画書の長期目標と短期目標が表示されるので評価および変化、課題と要因を入力します。

3月22日 17:46

お知らせ ユーザー情報 アセスメント サービス計画 予定管理 日常業務 実績管理 請求管理 各種登録情報 維持管理

TOP 訪問介護 訪問看護 療養管理 通所介護 通所リハ リハビリ 福祉用具 経過記録 一覧表示

氏名 阿部 大田 大輔 男性 84歳 認定有効期間: 令和02年05月01日~令和05年04月30日 申請区分: 認定済(新規) 担当: 管理者 一郎

新規 保存 印刷 削除

通所介護計画書 機能訓練計画書 通所介護計画書評価 機能訓練計画書評価 旧方式へ切り替え

評価者 管理者 一郎 評価日 令和 03年03月21日 通所介護計画書No - 機能訓練計画書No - 機能訓練計画書評価No
No.01 平成29年12月15日 - No.01 令和03年03月15日 - No.02 令和03年03月21日

共同評価者

訓練目標 実施後の対応

長期目標
・外出や運動の機会をふやし、身体機能の維持・改善を目指しましょう

長期目標 目標達成度
 達成 一部 未達

短期目標
・下肢や体幹筋力を維持・強化し、歩行に自信がもてるように

短期目標 目標達成度
 達成 一部 未達

個別機能訓練の実施による変化
歩行の足取りがふらつきなくなった。

個別機能訓練実施における課題とその要因
施設内は杖を使わず、安全に歩行ができるのに自信がないのか、杖を持たずに外出ができない。